第５０２回　長野放送番組審議会

１．　開催年月日　令和元年６月５日（水）午前１０：３０より

２．　開催場所　　長野放送本社会議室

３．　委員の出席　○委員総数　　８名
○出席委員数　７名
○出席委員の氏名（敬称略・委員は五十音順）
委員長　　林　新一郎
副委員長　渡辺　重久
委員　　荻原　健司
委員　　春日　十三男
委員　　加藤　恵美子
委員　　笹本　正治
委員　　佐藤　裕一

○欠席
委員　　田中　宏昌

○放送事業者側出席者名
外山　衆司　　（代表取締役社長）
矢澤　弘　　（取締役報道制作担当）
飯嶌　憲彦　　（取締役編成・業務推進・放送番組審議会担当
業務推進局長）
石黒　敏也　　（取締役総務局長）
柳沢　浩之　　（編成局長兼放送番組審議会事務局長）
上小牧　忠道　（編成局次長兼編成部長兼視聴者室長）
春原　晴久　　（報道制作局長）番組プロデューサー
黒岩　祐治　　（制作部ディレクター）

４．議題

（１）番組審議

『ＮＳＴ　ＮＢＳ　開局５０周年記念特別番組

山本耕史ラブリバー　～千曲川・信濃川３６７ｋｍの旅～』

（平成３１年２月２６日火曜日午後７：００～８：５４放送）

（２）番組改善委員会報告

（３）視聴者対応報告（令和元年５月分）

５．議事概要

（１）番組審議

・話題を丹念に取材し、歴史、教養、観光、グルメだけでなく、災害など負の要素も組み込み、内容に厚みがあった。
・４Ｋやドローン映像の美しさが見事。ＣＧを使った説明も非常にわかりやすくされていた。
・千曲川の源流に向かうところの場面展開が良かった。川の音、木洩れ日が心地よく、源流で水を飲む場面は、画面のこちら側でもあの水を飲みたい気持ちになるくらいいい映像だった。
・２時間近い番組ではあったが、途中飽きもせずに楽しかった。教養が深まる作りになっていた。
・長野県から新潟県へ、地域の連続性が１本の“川”を柱に表現されていた。
・説明者として登場する方のプロフィール紹介が、個人情報を含め親近感があり、良く工夫されていた。
・今まで知らなかったことを、エンタテイメント番組という形で分かりやすく教えてくれた。

・隣接県・地域との“コラボ企画”としてうまく成立した。ほかにも共通テーマがあれば可能性が広がる。
・川がもたらした財産の大きさを改めて認識できた番組。
・丁寧に取材した、力の入った教養番組。
・新潟県側の分水路や治水の話は非常にためになった。川への取り組みで農業のやり方がいかに変わったか、その話題だけでも取り上げる価値が十分にある。
・自県と隣県と、両方の県民が興味の湧く話題をうまく選択していた。同時に、２局がそれぞれのパートを違和感なく作ることのすり合わせの難しさを感じた。
・千曲川から信濃川に変わる部分で、ＣＭを挟んで急に雰囲気が変わった感じがした。
・善光寺で使われた木材が千曲川の水運を利用して運ばれたことは知らなかった。水運を利用して長野・新潟両地域の経済的・文化的交流がもしあったのならば、それが知りたかった。
・ＮＨＫの『ブラタモリ』形式の番組作りは当たり前なのだろうか？非常に意識しているように見えた。
・上田城や真田一族を特別扱いし過ぎている。今までメディア等で扱っていないものを紹介して欲しかった。
・せっかく川の話を中心に展開しているのに、「川中島の合戦」の話題に来たところで川と合戦の話が出てこなくて、そこの名産「長芋」掘りで終わってしまった。
・女性の解説者を起用して欲しかった。
・犀川にも触れると、もっと視点が広がった。
・“千曲川水系”というとらえ方に変えると、もっと視点が広がり、長野県全体に話題が及んだのではないか。善光寺に使われた木材には木曽エリアも関わったはずだと思う。

・“諸説あり”という注意書きはあまり多用するとしつこいので、“一般的には”という言い方など、別の表現方法を使って工夫しても良いのではないか。

（２）視聴者対応報告

資料に基づき平成３１年４月分の視聴者対応について編成局より報告を行った。

以　上